

「一般廃棄物最終処分場」の

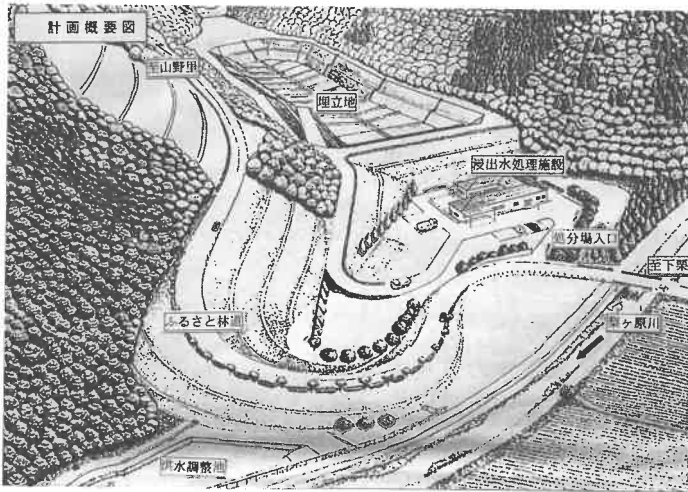
建設工事に着手！

平成12年の完成をめざす

現在不燃物処理場(環境センター)がほぼ満杯となり、年々ごみの発生量が増加している中、11月15日(日)、一般廃棄物最終処分場の安全祈願祭が、栗原建設予定地で行われました。

安全祈願祭には、県、町、そして地元関係者など約70人が出席し、工事の安全と円滑な事業促進を祈り、新最終処分場の整備が始まりました。

ここで、最終処分場の概要や安全性についてご紹介します。



完成予想図

■事業規模

- ・敷地面積:約38,400㎡・埋立面積:約10,000㎡
- ・埋立容量:約50,000㎡・埋立対象:不燃物(陶器屑・ガラス屑など)及び焼却灰

■主要設備

[埋立地]

- ・締切堰堤:盛土堤(高さ11m・長さ70m)
- ・遮水構造:全面二重遮水シート
- ・漏水対策:漏水検知システムの設置及び地下水の常時監視(地下水集排水管及びボーリング井戸3箇所)
- ・その他設備:ガス抜き管、地下水集排水管

[浸出水処理]

- ・生物処理・高度処理(一日30㎡の処理能力)、豪雨時は3,500㎡の水槽に一時貯留。
- ・処理水は、排水基準値以下にする。



安全対策は万全です

①遮水シート

遮水シートの材料は、これまで合成ゴム、塩化ビニール、ポリエチレンなどがありましたが、各材質の短所を改良した、新素材で、性質的にも最も強靱なポリウレタンを採用しています。

また、不透沈下対策として埋立地の底面をセメントで地盤改良(厚さ約50cm)し、その上部の遮水シート上面に搬入車両による破損を防止するため、真砂土を厚さ50cmで敷設します。遮水シート法面部は埋立重機により、破損することが考えられることから、保護マットを埋立の進捗に応じて敷設します。

②万一の浸出水の漏洩を監視

遮水シートの破損で浸出水が地下に浸透した場合、漏水検知システムで漏水の位置を確認し、補修対策を実施します。埋立地の周辺では、モニタリング井戸による地下水の監視(埋立地の外に下流2箇所・上流1箇所)、遮水シートの底面を流れる地下水についても排水管を利用して常時水質監視を行います。

③豪雨時の浸出水処理

過去に災害をもたらしたような、雨量にも対応できるように浸出水処理施設の地下部分に浸出水貯留槽(3,500㎡)を設置します。

④浸出水の高度浄化

重金属を含め水質汚濁防止法に基づく排水基準よりも10倍程度きれいに浄化します。

⑤維持・管理

日中は通常の維持管理のため、施設管理者が巡回・見回りを行い、夜間など浸出水処理施設で処理機器に異常が発生した場合は、役場に自動連絡システムを導入し、非常時体制を整えます。

⑥監視体制

日常の管理から、非常時の対応まで、地元代表者を含めた監視委員会を設け、安全で安心な、透明性のある監視体制を整えます。

